

世の中捨てたもんじゃないね

【高学年 2 - 2】

キーワードとなる言葉からねらいに迫った事例

(1) 主題名 思いやりの心 【2 - 2】

(2) ねらい だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を養う。

(3) 資料名 「世の中捨てたもんじゃないね」

(4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 人に親切にされた経験を話し合う。	親切にされて「うれしかった」と思ったことはありませんか。 ・ けがをした時、助けてもらった。 ・ 迷子になった時、声をかけてもらった。	「親切」という行為について話し合い、資料への興味をもたせる。
展開	2 資料「世の中捨てたもんじゃないね」を読んで話し合う。	みぞにタイヤを落としてしまった時、お姉さんはどんな気持ちだったと思いますか。 ・ どうしよう、大変なことになった。 ・ 誰かに助けてほしい。 ・ 知らない人でもいいから頼んでみよう。 雨でびしょぬれになりながら車の後ろを持ち上げた人たちはどんな気持ちで行動したのでしょうか。 ・ 困っている人をほってはおけない。 ・ 自分ができることはしてあげたい。 ・ どうぞ車が出ますように。	誰かに助けを求めている緊迫したお姉さんの気持ちを想像させる。 雨にぬれながら車を持ち上げている人たちの行為が相手の立場に立ったものであることに気付かせ、その行為と思いやりが、おばあちゃんの「世の中捨てたもんじゃないね」という言葉につながっていることを理解させる。
	3 おばあちゃんの言ったことについて考える。	「世の中捨てたもんじゃない」とはどのようなことを言うのでしょうか。 ・ 困っている人のために親切にする人がまだまだいること。 ・ 人と人とが助け合うことが大事。	おばあちゃんの言葉に込められた願いを考えていく。
	4 自分たちの経験について話し合う。	みんなも「世の中捨てたもんじゃないね」と思ったことはありませんか。 ・ もう、返ってこないだろうと思っていた落とし物を届けてもらった。 ・ 家族でドライブをした時、ガソリンがなくなって困っていたら、知らない人が声をかけて助けてくれた。	児童の日記などをもとにした事例を紹介し、一人一人に経験を想起させる。
終末	5 教師の説話を聞く。	・ 人を思いやることを大切にしたい社会にしたい。	人を思いやる心がたくさんあふれている社会は、すばらしいという考えに共感させる。

世の中捨てたもんじゃないね

ガターン。

外で大きな音がしました。家にいた私とおばあちゃんはびっくりして何があったのかと思い、あわてて外へ出てみました。すると、そこに一人のお姉さんが、こまったような顔をして立っていました。

「すみません。車をバックさせていたら、みぞにタイヤを落としてしまったのであげるを手伝ってもらえませんか。」

すると、おばあちゃんは、

「今、家には私とこの子しかいないから、あげられるかなあ。」

と言いながら車の方へと行きました。私も後をついて行ってみると軽自動車の後ろのタイヤがみぞに入り込んで、車がかたむいていました。お姉さんが車のエンジンをかけて、おばあちゃんと私で車の後ろを持ち上げましたが、びくともしません。倉庫から板を持ってきてタイヤの下へ置いてエンジンをかけてみてうまくいきません。何度やっても同じでした。

そのうち雨が降ってきました。その時、向こう側の道路を走っていた車がこちらの道へ入ってきました。その車は私たちの前で止まり、中からおじさんがおりてきました。

「手伝いましょう。」

そう言つて、車の後ろを持ち上げましたがうまくいきません。すると、また一台、車が止まりました。

「大丈夫ですか。手伝いましょうか。」

と、車の中から若い男の人が声をかけてくれました。雨でびしょぬれになりながらみんなで車の後ろを持ち上げ、お姉さんがエンジンをかけました。私は心の中で、うまくいくといいなと祈っていました。しばらくすると、うまく具合に後ろのタイヤが持ち上がって、みぞからタイヤを出すことができました。私は、思わず拍手をしていました。お姉さんもととても喜んで車の中から出てきました。そして、

「ありがとうございます。私は免許をとったばかりで、道に迷ってしまい、バックしていたらみぞに入ってしまったんです。」

と言いました。それからお姉さんは、みんなに何度も何度もお礼を言つて帰って行きました。

おばあちゃんは、家の中へ入りながら、

「近頃は暗いニュースが多いけれど、今の人たちみたいに誰か困っていたら声をかける人もまだまだいるんだね。世の中捨てたもんじゃないね。」
と言いました。私もおばあちゃんの言うとおりだと思いました。

雨もいつの間にかやみ、明るくなっていました。

活用に生かすための実践報告

「世の中捨てたもんじゃないね」

1 主題の設定

・高学年になると友だちに対する見方が固定化する傾向にある。自分と仲のよい友だちが困っていると積極的に声をかけ、手助けをしている姿をよく見かけるが、他の友だちに対して進んで声をかけ、行動する場面は少ない。本当の思いやりの心とは、誰に対しても分け隔てなく接しようとする心である。また、相手の立場に立って考え、その人の気持ちになって自分がどう行動すればよいのか考えることである。思いやりの心をもち温かい心で人と接することの大切さを、この教材を通して考えさせたい。

2 指導過程の工夫

・導入で自分が親切にしてもらってうれしかったことを話し合わせた。このことによって「この人たちは、以前、自分が困った時に助けてもらったのがうれしかったので、人が困っていたら助けようと思ったのではないか。」という意見が多く出た。このことから、展開後段で「知らない人に親切にしてもらってうれしかったから、誰かに親切を返してあげたという経験はありませんか。」と問いかけていった。この発問には、児童からの反応が意外と多く、主題にせまることができたと思う。児童の反応によって、展開の後段部分は発問を考えていくとよいと思う。

3 発問の工夫

・すぐそばの道を通っていた車でなく、向こう側を走っていた車なのに、わざわざ道に入ってきて手を貸してくれた。しかも雨でびしょぬれになりながら車を一緒に持ち上げてくれている。人の心のやさしさについて十分児童に話し合わせた後、おばあちゃんの言った「世の中捨てたものではない」について考えさせ、社会の中で人と人との思いやりの心をもってかわりあっていくことが大切であることを考えさせたい。

4 児童の反応（授業後の感想）

・最近は毎日のように暗いニュースが起こっているけれど、こういうふうに困っている人を進んで助けてあげられる人もいるんだなと思いました。中には自分のことしか考えない人もいます。でも、このように人のことを考えられる人もいます。私は、おばあちゃんの言った通りこんな人もいるのだから世の中も捨てたもんじゃないなと思いました。「人が困っていたら助ける」ということは、やっぱり見習っていかないとはいけなかったと思いました。

・この前、電車に乗っていた時、お年よりの人が乗ってこられました。わたしは声をかけて席をゆずろうと思ったけど勇気がなくてなかなか言えませんでした。そしたら前に座っていたおばさんが、「どうぞ。」と言って席をゆずりました。今まで席をゆずるのは、かんたんと思っていましたが、意外とむずかしいなとわかりました。でも、この勉強をして困っている人がいたら声をかけて、自分ができるとはしていこうと思いました。

5 実践者からの一言

・自分の経験を出し合わせるにより、本当に困った時には知らない人にでも助けを求めたいというお姉さんの立場と、困っている人に対して進んで手助けをしようとする人たちのすばらしさを考えさせることができた。

・この資料は実話に基づいて作成したものであることを児童に知らせることで、この事実をよそ事ではなく、自分たちの身近なものとして考えさせることができた。

（野々浜小学校 門井恭子）